



2019年5月28日

各 位

会 社 名 三菱製紙株式会社
代表者名 取締役社長 鈴木 邦夫
(コード：3864、東証第一部)
問合せ先 広報・IR室長 白川 文人
(Tel.03-5600-1485)

新中期経営計画の策定について

当社は、このたび、2019年度(2020年3月期)～2021年度(2022年3月期)の中期経営計画を策定し、本年4月から下記の通り取り組みを開始いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 計画の名称 新中期経営計画
2. 計画の期間 2019年4月～2022年3月(3カ年)
3. 基本方針
新しいステージに立った事業基盤の強化と多様化
4. 重点戦略
 - ①王子グループとのアライアンスによる強固な経営基盤の確立
 - ・王子グループとの資本・業務提携効果の拡大と深化
王子グループ及び当社グループの経営資源及びノウハウを相互に活用して生産、販売、原材料調達、物流、エンジニアリング、設備投資、研究開発及び間接部門など全ての事業分野において強固な協業関係を構築することにより、効率化とコストダウン効果を早期に発現させ競争力強化を図る。また、財務基盤の強化により、経営基盤の安定化と有利子負債の一層の削減を進める。
 - ・洋紙事業の収益安定化
洋紙事業は、王子グループとの相互OEMの強化、販売政策の転換、倉庫や物流の相互活用も含めた供給物流費の削減、需要動向に見合った生産体制の構築と生産効率の向上、及び原燃料の購入コストの削減を進め収益安定化を図る。
 - ②既存事業の再構築と充実
 - ・イメージング事業の再構築と充実
イメージング事業は、写真用原紙などで富士フイルム(株)とのアライアンスによる事業基盤強化を進めながら、海外市場への積極的展開により、成熟化しつつある既存製品販売の充実を図る。
 - ・機能材事業の再構築と充実
機能材事業は、独自の技術を活かし、中国を中心にアジア諸国及び欧米での販売拡大に努め、水処理膜支持体などの不織布、リライトメディア、化粧板原紙やテープ原紙などの事業で着実な前進を図る。

③新たな収益の柱の育成による事業基盤の多様化

- ・王子グループとの共同事業の黒字安定化

八戸工場では、王子グループと共同による家庭紙事業やバイオマス発電事業を順次立ち上げており、事業構造の転換を進めながら黒字安定化を図る。

- ・新たな収益の柱の育成と多様化

イメージング技術を用いた機能性フィルムやデジタル捺染紙、品質面で優位性を持つバッテリーセパレータや無機繊維紙、脱プラを目指した各種バリア紙の立上げ、などの成長分野での事業拡大と多様な新規事業の確立に向けた取り組みを進める。

5. 経営数値目標

| 連結指標 | 目標値 (2022年3月期) |
|--------|----------------|
| 売上高 | 2,200億円 |
| 営業利益 | 55億円 |
| 経常利益 | 60億円 |
| 有利子負債 | 980億円 |
| D/Eレシオ | 1.3倍 |

<前提条件>

為替：110円/US\$、130円/€

原油価格 (Dubai)：65 US\$/BBL

以上